

AA

171-0014 東京都豊島区池袋4 - 17 - 10 土屋ビル4F

日本ニューズレター No.82

第1回全国サービスフォーラムに参加して
♪こっちの蜜は甘いぞ♪

大分大学教育福祉科学部 橋本 美枝子

4月8日～9日にかけて開催された第1回全国サービスフォーラムに参加した。50名程度だろうとの当初の予測をはるかに越え、約130名のメンバーが全国から名古屋に集まった。ラウンドアップや周年行事ならまだしも、サービスの集まりに全国から、しかも自腹を切って130名もの参加があったとは、正直言って驚いた。なぜならサービスというと、「むずかしい」だの「わからない」といった反応が少なくなからだ。

AAメンバーには「サービス」になるべく近寄らないようにしている人と、全身どっぷりと浸かっている人の両極端に分かれているように感じるのは私の偏見だろうか。おなじみの「中途半端は何の役にも立たなかった……」からみれば、確かにこの両極端はAAらしい現象と言えなくもない。今回集まった人たちは、サービスにはまってしまった人、はまるほどではないけれどサービスに関心がある人、サービスにはまっている人に誘われて来たという人、AAのイベントがあるからとりあえず来たという人と、参加の理由はさまざまだろう。どんな理由であっても、そこに足を運んだということ、そこで何らかの経験をわかちあえたことそのものが大切だと思っている。

「経験と希望と力をわかちあう」これはAAの特性である。私は、12番目のステップ「すべてのことにこの原理を実行しよう」と努力した」をアルコールの問題に限らず、サービスの経験を含めたわかちあいも、AAの原理を実行に移すことと解釈している。今回のフォーラムの中で、アメリカではサービスの経験をスポンサーとともにわかちあうことが、スポンサーになる条件になっていると知ったが、これはまさにA

Aの原理の実践であり、日本も学ぶべきことではないかと思った。その意味で、サービスの経験をわかちあうサービスフォーラムの開催は、日本のAAにとって画期的であり、大きな一歩を踏んだといえる。今後ともサービス経験の鎖をつなげ続けていくためにも、AAのサービスについて経験を通してわかちあえる機会を拡大していけることを期待しているし、外野ながら応援したいと思っている。

ところで、もう6年くらい前になるだろうか？私はサービスにはまっている人たちが、文句を言われたり、嫌な顔をされながらも、目をキラキラさせ、全身に喜びを放出しながらエネルギーに飛び回っている姿に「これは一体何なんだ！」と驚愕した覚えがある。そんな彼らとおつき合するうちに、何か強い感染力でもあるのか、気がつくとなンアルコホーリックながらサービスにトコトンはまってしまった。

フォーラムの中で、サービスにはまってしまった人のことを、アメリカでは「サービスの蜂に刺された人たち」と表現すると聞き、「何て当を得た表現！」と感動するとともに、感染源がはっきりし、妙に納得してしまった。確かに、会場で見かけた顔ぶれは「サービス」となれば嬉々として何処にでも飛んでいく人たちである。彼らが、サービスの猛毒におかされた人たちなのか、針の先にちょこんとついた甘い蜜の味の虜になってしまったのかは定かではない。が、いづれにしても会場は「サービス」「献金」「アノニシティ」と、ちょっと変わった羽音を立てる蜂が群がる花畑のようであった。かくいう私もフォーラムに用意された花の香に惹かれて飛んで行ったのだから、相当蜂の猛毒が全身に回っているに違いない。

こっちの蜜は甘いぞ 一度なめたらもう病みつき。サービスに今一歩近づけないでいる方、敬遠している方も、気楽にサービスの経験をわかちあってみませんか？

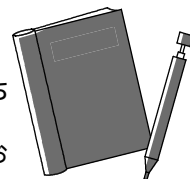
第2回 全国サービスフォーラムの開催を楽しみにしています！



ビッグブック第二部「個人の物語」 原稿募集のお知らせ

97年の第二回評議会でビッグブックの翻訳改訂が承認され、翌98年の第三回評議会では、第二部「個人の物語」について、従来のものに、女性、若者、高齢でAAにつながったメンバー、底つきがとて浅いメンバーの回復の物語を追加するという採択がなされました。そこで、ビッグブックハードカバーの発行に向け、そのような方々の回復の体験を下記の要領で公募します。

1. 400字詰め原稿用紙25枚程度
2. 内容はAAの基本である、“以前はどうであったか”、“何が起こって”、“今(AAのプログラムによって)どうなっているのか”を分かち合ってください。
3. 特に具体的なテーマは設定しませんが、AAのプログラムによる自分自身の回復にのっとった分かち合いをお願いします。
4. 原稿掲載にあたっての選択は、担当委員(常任理事会出版委員会、評議会出版委員会、出版局)にお任せ頂きますようお願いいたします。
5. 内容につきましては、一部変更や書き直しをお願いする場合がありますので、あらかじめご了承ください。
6. 原稿締切：2000年10月末



お問合わせ窓口：J S O内出版局

AAホームページアドレスが変わりました

(<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>)

広報担当村理事：木村

1 ホームページの広報としての役割

日本のAAとして、ホームページを発信したのは、1996年5月からである。その発信責任は、AA日本常任理事会・広報委員会である。

内容は、

- * AA（アルコールクス・アノニマス）とは
- * AAの書籍と出版物
- * 各地のAAサービスオフィス……AAと連絡をとるために
- * AAミーティング会場リスト
- * 各地のイベント案内

が掲載されており、誰もがその内容を見てAAを理解し、AAにつながり、アルコールリズムから回復し、ソプラエティを達成することを願ったものである。

大都市から離れた地域では、ミーティング会場も少なくAAの書籍やBOX-916などの活字による媒体によって、ソプラエティを継続している仲間も多くいる現実を観る時、AAのホームページに期待されるものは極めて大きなものと考えている。

2 アドレス変更の理由

これまでホームページの管理をしていただいたメンバー（常任理事会広報委員会委員）が、この4月逝去され、急遽他のメンバーにアドレス変更をしないで継続するようお願いしたが、プロバイダーとの契約上の問題があり、変更のやむなきに至った。

3 今後の課題

急速に発展している電子情報化社会の中で、その内容を充実させることによって、まだ苦しんでいる仲間たちへより良い活字のメッセージが運べればこんなに素晴らしいことはないと思う。

そのために、今後、このホームページの内容について、多くの方々のご意見を頂き、改善してまいり所存である。

香川県高松市で開催された「OSM」に寄せて

5月末に開催された高松オープンスピーカーズミーティングに先だって、地元のFM局が広報をしてくださることになった。ちょうど、オフィススタッフ会議の開催と重なったこともあり、常任理事の高橋氏、関東甲信越セントラルオフィスの野口所長、と一緒に収録を行なってきた。AAという言葉の意味から、それぞれの体験を踏まえた話を、短い時間の中ではあったがお話することができたようである。

すぐに反響があるとは思えないが、いずれ何かの役に立つと考えている。それはそれとして、今回の開催を準備し、無事終えることができた仲間の感想を、全国の皆様にお伝えしたい。
J S O 野崎

イベントは

何の為にするのか？（中四国OSMを終えて）

5月28日（日）～29（月）にかけて香川県高松市で中四国地域主催の「オープン、スピーカーズ、ミーティング」が開催されました。私の体験（イベント委員長としての）と合わせて開催までの経過等を振り返ってみたいと思います。

私がAAにつながって4年が過ぎました。ちょうど4年前初めて高松市でオープンが開催されたそうですが、知る由も無く、私自身いろいろな問題を抱えて生きて行くことがどうにもならなくなっていた頃だったと思います。自分を変えなくてはいけないと解ってはいるけれど、どうしたらいいのかわからないまま、苦しい毎日を送っていました。そんな時に、ある人（AAのメンバーではなく、また専門家でも関係者でもないけれどAAのオープンに参加したようで）から「AAに行ってみないか？」と誘われました。私にはかえってそれが良かったのか気楽にミーティングに行くことができました。

そしてSTEP1にたどり着いたのです。それから今までの間に何回かAAから離れては帰ってくることを繰り返しましたが、いつも誰かがミーティング場を開けて待っていてくれました。

「国際シンポジウム報告書」が完成

専門家のための国際シンポジウム

AAと医療関連機関との協力を深めるには

25周年記念集会の2日目に開催された国際シンポジウムの報告書がこのたび完成しました。

このシンポジウムは25周年実行委員会の絶大な協力のもとに、急ぎょ実現にこぎつけることができた、画期的な行事でした。“専門家のための”シンポジウムであるため、当日は参加も発言も関係者を優先させてくださった仲間の皆様のご協力に感謝しています。そこで当日のシンポジウムの熱い雰囲気をできるだけそのままにお届けできる報告書を作成させていただきました。作成にあたっては、膨大な分量のテープ起こしを手伝って下さった仲間のかたがたに深く感謝します。

また、このシンポジウムは、25周年実行委員会に全面的に協力をいただいたおかげで実現したものであるため、その報告書もなんとか手作りにして、費用負担もなく皆様にお届けできないものかと頭をひねっていたところ、ある地区から、用紙の献品、印刷、製本にいたるすべての経費と作業の全面的な協力の申し出があったためそれを実現することができました。

そのような次第で、各グループには一部しかお送りできないため、グループ内で入手希望の方にはコピーしていただけますようお願いいたします。

なお、関係者の皆様には広報資料として、同様に無料で配布させていただきますが、送料の実費のみはお願いする予定であります。入手ご希望の関係者の方はJ S Oにお申し出ください。

最後に、本報告書作成にあたって、惜しみなく時間と経費を提供して下さった仲間の皆様に、心から御礼させていただきます。

昨年の7月に三たびAAに帰ってきた時には何か自分にもできることをさせてもらいたいと思いました。“飲まないで生きる”ことを積極的に考え出したのはこの頃からかもしれません。各地のイベントに参加して飲んでいないことに感謝すると同時に自分だけがこの想い(飲まないでいる楽しさ)を独り占めにしていることに気づかされました。メッセージが届いていない人の数の多さです。つまりはグループのメンバーが少ないままであることがそれを物語っています。個人の出すメッセージの限界のようなものをグループのもう一人も感じていたようで、たった二人のメンバーではありましたが一生懸命考えました。

「グループの力を出すメッセージには限界があるから地域の力を借りてメッセージを出そう。オープンミーティングはどうだろう？」

地域集会で承認をもらうことができ、高松でのオープン開催が決まりました。各メンバーがフルに日常のネットワークを利用してお知らせにまわってくれました。医療・行政・関係者はもちろん...市民団体、メディア方面まで幅広くメッセージを運んだと思います。そんな中でも地元FM局が30分の枠をAAのメッセージに当ててくれました。収録に関しては評議員を通し、打ち合わせが行われました。5月17日から隣の松山市で行われた「全国オフィススタッフ会議」にいられた方々の協力もあり、常任理事を含む3名の方が収録に参加され、地元では考えられない力のあるメッセージを運んでもらうことができました。

オープン開催までの準備期間中、ずっと考えていたことは「イベントは何の為にするのか?」ということでした。高松で人数は集まるのか? 人数が少ないのであればそこまでする意味はないんじゃないのか? 赤字にならないのか? 等々、善意故のいろいろと心配した助言もありました。イベントはメッセージを出すもので余剰金集めじゃない、当日人数が集まらなくてもその後で影響(メッセージが届くこと)がある、そのことは私が救われたことが一つの例ではないか...とは思うものの...途中で本当にそうなのかと不安になったこともあります。

とにかく「中四国オープンミーティング」は無事に終了しました。参加人数は38名と少なかったものの、高松のAAミーティングに顔を出したこともなかった行政関係者が3名も参加してくださいました。また最近関係が薄くなっていた医療関係者にも参加していただけました。そして中四国だけ

でなく関西のメンバーの参加もあり、多くの人の協力があったでなんとか無事行うことができました。1グループまた1個人では決してできなかったことでした。同時に目に見えない形で支えてくださった多くの仲間がいたことも付け加えてさせていただきます。

今回のイベントでは私自身貴重な体験をさせてもらったと感謝しています。古い考え方や飲んでいた頃の反応パターンが誤魔化せないほど強く表われて、どうしようもなくなったこともあります。逃げたいと思う一方...前に進みたい、変わりたい、ナアナアで昔の考えにしがみついていたけど...自分を変えてもらわなければ他にどうしようもなかったというのが本音です。とにかく行動することで変えていく勇気や...自分より偉大な力を信じることを少しはさせてもらうことができたのではないかとと思っています。

「中四国オープン」を終えて少し時間がたちました。高松での問い合わせが増えたり、医療行政関係の対応が少しずつですが変わったりしています。そして不安定だったメンバーが定着したりと、当日だけでは計ることができなかったことが起こっています。きっと私達が知る由もないところで様々な力が働いて、ハイパーパワーの偉大な計画によって時を経るにつれ目に見えるものになるのだらうと思います。

昨年8月の地域集会で「イベントの在り方を考えよう」と「イベント委員会」が発足しました。今年からイベント委員長をさせてもらっていますが、まだ「何をするとするの?」と様子を見守られているようです。4月に「イベントはメッセージ運ぶ為に行う」とイベント委員会から方向性を打ち出しました。その後、初めてのイベントが高松での中四国オープンでした。

グループのメンバー数が少ないところほどAAのメッセージが届いていないといえるのではないのでしょうか? まだ苦しんでいるアルコールクが多いと分かっているところこそ多くの仲間の力を必要としていると思います。だからAAのイベントを人数やお金で計らないで欲しいのです。私たちは誰もがAAを必要とし、日々感謝し、まだ苦しんでいる仲間

イベントはメッセージを運ぶとても良い場所、機会でしょう。それによって仲間との出会いが与えられ、そのうえ自分が飲まない一日が与えられるならこれ以上の恵みはないと思いませんか?

栗林G まい

世界のAAグループとメンバー数

先日届けられた「BOX459」に、毎年、ニューヨークGSOが12月に各グループ、各国GSOにリクエストしたものの集計が掲載されました。2百万人もの仲間がいることをお伝えします。

	グループ数	メンバー数
アメリカ合衆国	51,151	1,161,436
カナダ	5,132	97,504
矯正施設内	2,519	64,723
国際船員		114
ローンメンバー		314
アメリカ・カナダ以外	40,222	666,413
合計	99,042	1,990,504

それでもまだ苦しんでいる人たちの数は、想像を超えるものだと思います。一人でも多くの人たちには「AAの愛の手」が届けられますように!

「評議会承認出版物」と「グループあるいは地域独自のニュースレターもしくは発行物」 AA日本出版局

4月に開催されたサービスフォーラムで、既存の出版物だけでは自分たちのグループや地区、地域の事情には合わないという不全感が表明されていましたが、そのことについて今回のニュースレターの紙面をお借りし、情報を提供させていただきたいと思います。

まず、AA出版局から発行されているAA出版物は、基本的に、AA全体の見解が表明されたもので、日本全国どこの地域でも利用していただける、全国共通の内容、全国共通の価格のものです。したがって、特定の誰かやどこかのグループの意見を表すものではなく、あくまでもテーマごとにAA全体の見解が表明されています。では、だれがAA全体の考え方を決めるのかといえば、公称135万人（実際は200万人近く）のアメリカ・カナダのAAメンバーから託された評議会メンバーによって、十分に揉まれ、場合によっては数年も続けて徹底的に絞り上げられた（？）結果、承認されたもので、それらは“(アメリカ・カナダ)評議会承認出版物”と呼ばれています。その完成品を日本で翻訳発行する許可を与えられているのが日本ゼネラルサービスオフィス(JSO)であり、その出版局では、責任を持って、原文の内容、原文の精神を損なわずに精一杯原文のニュアンス通りに伝えていける翻訳を行なうため、何度も内容の確認をし、日本語としての推敲を重ねています。(余談ですが、この翻訳推敲のチームの人たちは誰にも負けないと自負するほど、AAの精神を愛している人たちばかりです。行間の英語のニュアンスを確認するために、アメリカで全体サービス活動に携わっているパイリンガルのアメリカ人のメンバーや日本の英語グループのメンバーにもたびたび応援を依頼しています)。そこで完成した原稿は、今年からは常任理事会及び評議会の出版委員会の承認を受けてはじめて発行されるようになりました。(従来は評議会から常任理事会の責任のもとに出版局が発行を託されていました)。ちなみに、アメリカ・カナダ評議会承認出版物は世界各国の言語に翻訳され、発行されていますが、その発行許可は1カ国につき1カ所だけのゼネラルサービスオフィスに与えられ、国内のあちこちからさまざまな翻訳のものが発行されて、混乱が生じたり、AAの内容が曲解して伝えられないよう配慮されています。(これらの著作権のことは、昨年4月20日発行のAA日本ニュースレターNo.75をご参照ください)

アメリカ・カナダ評議会承認出版物日本語翻訳版以外にも出版局からは何種類かの出版物が発行されています。日本中のメンバーの知恵が集約されて完成した『AA日本サービスガイド』、評議会の前身であるGSM時代に発行が承認された、『回復への道』、わが国では抜きんでたベストセラーの『ミーティングハンドブック』。また、評議会承認出版物の一部をわが国の事情に合わせてアレンジした、『関心...』、『関係機関...』、『こんな世界があるなんて』なども日本評議会承認出版物であり、それは全体サービスの一つの活動だといえます。

ところが、ある地域で起きた問題が、必ずしもほかの地域

と共通するわけではないのは当然のことだと思います。特定の地域の、ある特定の問題を、全国あるいは世界共通のAAパンフレットに答を求めようとしたとき、なんとも物足りない、なんとも歯がゆい思いがあったという経験を数多くされたことと思います。うちの地域の場合、こういう人たちが特に多いので、特にその人たちに向けた説明が必要...といった要望が出てくるのではないのでしょうか。つまり、世界共通/全国共通の出版物では対応しきれない、地域の事情、地域のニーズに焦点が向けられた文書が必要になってくるということです。だからこそ、地域独自のニュースレターや機関紙が作られ、新しい人へのグループのお知らせ等が生まれていきます。AAのガイドライン“セントラル/インターグループ・オフィス”によれば、その場合一人や二人のメンバーが個人的に発行するよりも、委員会を作って、その形式や企画、内容について責任を持って実行していくのが賢明だと書かれています。発行の責任主体がはっきりしていない場合、それは“海賊版”であり、問題になってしまいます。

またその際、AA出版物の内容の一部を引用する場合がございます。AA出版物の引用については大いに勧められているところですが、その場合、必ず出典を明確にさせていただきますようお願いいたします。つまり、AAの何かのパンフレットから引用をした場合、引用文のあとに、AAワールドサービス社(JSO)の許可のもとに、タイトル、ページ数、何行目から何行目までを引用と書き加えてください。なお、序文(プレアンブル)掲載の場合は最後に(AAグレイプバイン社の許可のもとに再録)、ステップと伝統については最後に(AAワールドソース社の許可のもとに再録)と明記してください。これらはすべて、AAの出版物の内容が捻じ曲げられたり、誤って紹介をされたり、使用されたりしないようにするための、そして今のAAメンバーがAAの著作権を守っていくための責任だといえます。

ごちゃごちゃと複雑な説明になってしまったような気がします。簡単に言うなら、地域のニーズに合わせたものを地域でオリジナル版として発行する自由が、伝統4によって確保されているのだということ。だから、地域独自のニーズの対応を全体サービスに求めるよりも、地域サービスで対応していけるのだということ。その場合、地域の責任主体を明らかにして発行し、既存のAA書籍、パンフの内容を引用するときには、必ずその出典を明らかにさせていただきたいということをご再確認させていただいた次第です。

最後にお願ひですが、地域独自のパンフレットなどを発行した場合、JSOにも一部お送り頂けますか？ JSOは情報の交換所としての役割を担っています。ある地域のパンフレットが、どこか別の地域で同じような問題が起きたとき、役に立てるかもしれませんが、別の地域で作成する際の参考になるかもしれません。

AA日本ニュースレターNo. 82

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>